

《活動報告》

Kyoto University Ancient History Seminar,
23 March, 2024

藤 井 崇

名古屋大学人文学研究科の川本悠紀子先生の招聘で来日された、エジンバラ大学歴史学・古典学・考古学部（School of History, Classics and Archaeology）のベン・ラッセル（Ben Russell）教授が、京都大学大学院文学研究科西洋史学専修を訪問された。ラッセル教授は、ローマ帝政期の建築、美術、都市構造を専門とする考古学者で、筆者が参加するトルコ・アプロディシアス遺跡発掘（ニューヨーク大学・オクスフォード大学）でも主導的な役割を果たしている。主著として *The Economics of the Roman Stone Trade*（Oxford University Press, 2013）がある。

この度の Kyoto University Ancient History Seminar では、まず修士課程院生の田中のえ氏が自身の卒業論文研究をもとにした報告 Roman Military Supply of Animal Products in the Northwestern Frontier Zone をおこなった。氏はドイツ・ハイデルベルク大学に留学中であつたため、zoom での参加となった。ローマ帝国北西辺境地域に駐屯した軍への補給を、文献・考古学史料から再構成する試みで、報告後にはラッセル教授を含めて活発な質疑応答がなされた。これに続き、ラッセル教授が ‘Mille genera marmorum’: Demand for Decorative Marble and the Long-Distance Stone Trade in the Roman Empire と題した報告をおこなった。ローマ帝国における装飾用大理石の生産と輸送の実態を、文献史料、出土史料、考古学データを駆使して明らかにする大変刺激的なもので、報告後の質疑応答も活発だった。セミナー後は、川本先生のお世話で京都大学近くのカフェで参加者が歓談し、有意義な研究交流を実現することができた。